

No.1

ヤ ワ タ イチ・ゴ・ゼロ

【YAWATA 150】

－ふるさとは八幡小学校です－

令和4年5月16日（月）

今年^{ことし}は八幡^{しゅうねん}小学校150周年^{しゅうねん}です

1873年^{のち}に後に八幡^{かりぎこう}小学校となる仮義校^{かりぎこう}ができてから、今年^{ことし}で150年^{ことし}になります。そこで、今年^{ことし}度は、150周年^{しゅうねん}にちなむお話し^{はなし}や、八幡^{はなし}学区^{れきし}の歴史^{れきし}につながるお話し^{はなし}をいろいろとしたいとかんが^{かんが}えています。

面白い^{おもしろ}お話し^{はなし}もあれば、まじめな^{まじめな}お話し^{はなし}もあります。ちょっとつまらない^{つまらない}ときもあるかな。むずかしい^{むずかしい}言葉^{ことば}もいっぱい^{いっぱい}出てきますが、おうち^{おうち}で家族^{かぞく}の方^{かた}と一緒に^{いっしょ}に読^よんでもらいたい^{おも}と思います。いろいろな^{いろいろな}話題^{わだい}を見つ^みけてお話し^{はなし}したい^{おも}と思いますので、楽し^{たの}みにして^{たの}いてください^ね。

その1 八幡小の「八幡」って

「八幡」と書いて「やわた／やはた／はちまん」と読みます。わたしたちの学校は「やわた小学校」と読みますね。

八幡^{しゅうねん}小学校の「八幡」の名は、この地^{ゆらい}に八幡^{しゅうねん}村という村^{むら}があったこと^{こと}に由来^{ゆらい}しています。調べ^{しら}てみると……

明治^{めいじ}22年（1889年）、この地^{ゆらい}に「八幡^{しゅうねん}村」という村^{むら}ができました。

八幡^{しゅうねん}村は、当時の「八熊^{やぐま}村」、「中野^{なか}外新田^{そとしんでん}村」、「野立^{のだて}村」、「西古^{にしふる}渡^{わたり}村」が合併^{がつぱい}してできた村^{むら}なのだ^{のだ}そうです。そして、合併^{がつぱい}したとき^{とき}に、学校^{よこ}の横^{よこ}にある「牛立^{うしだて}八幡^{はちまん}社^{しゃ}」の「八幡^{しゅうねん}」がもと^{もと}になって、「八幡^{しゅうねん}村」という名前^{なまえ}がつけ^{つけ}ました。神社^{じんじや}は「はちまん^{しや}社^{しゃ}」なのですが、村^{むら}の名^なは「やわた^{しゅうねん}村」になった^{なつた}ようです。

ちなみに、八幡村のもとになった、それぞれの村ですが……

- 八熊村は、明治11年（1878年）に、五女子村（一説には「ごによし村」と二女子村が合併してできました。
→ 「八熊」の名は、五女子町にある「八剣社」の「八」と、二女子町にある「熊野神社」の「熊」を合わせて「八熊」となったそうです。
- 野立村も、明治11年（1878年）に、中野村と牛立村が合併してできました。
→ 「野立」の名は、中野村の「野」と牛立村の「立」を合わせて「野立」となったそうです。
- 西古渡村は、昔は古渡村という大きな村の一部でしたが、その村が3つに分かれ、そのうちの西側が西古渡村となったのだそうです。
→ 「古渡」の名は、昔、このあたりが入り江（海）で、渡し船が出ていたのが、織田信長の時代に埋め立てられ、「古い渡し場（のあった場所）」という意味で「古渡」といわれるようになったそうです。
- 明治5年（1872年）には、すでに中野外新田村という名の村がありました。
→ 中野新田・中野外新田は、江戸時代に鬼頭景義という人物が中心となって、近隣の新田とともに、寛永8年から明暦3年（1631年～1657年）の間に作られました。

おまけ

- ※1 「八幡」の「八」と「八熊」の「八」は、同じ「八」の字を使っているが、二つとも神社の名前が由来ですが、でも、「八幡社」と「八剣社」違う神社の名前が由来だということが分かりましたね。
- ※2 「八熊」の名前のもととなる二つの神社は両方とも八幡小の学区にあります。このことについては、何回か後のお話で紹介する予定です。
- ※3 鬼頭景義の墓は、中島新町の道龍山空雲寺にあり、境内には名古屋市内で最大のクロマツの木があります。

（ちなみに、クロマツは中川区の「区の木」です。知ってましたか？）

